砂付の梵鐘（すなつき ぼんしょう）

市指定有形文化財
（工芸品）

婦中町富崎 5182
本覚寺所有

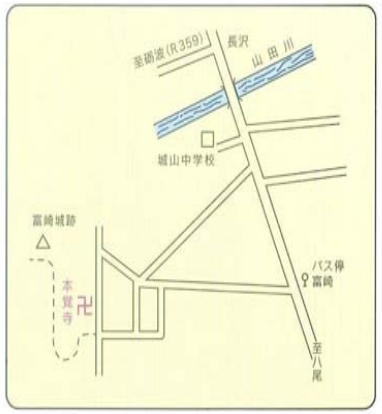
砂付の梵鐘は、室町時代に造られたと考えられ町内にある寺院の梵鐘の中では最も古い部類に入ります。

この梵鐘は、富崎城主であった神保安芸守（あきのかみ）が、ある工人（都築（つづき）七郎右衛門）という説がある）に鋳造させて寄進したと伝えられています。

「砂付の梵鐘」と名付けられたのは、戦国時代、佐々成政が富山城主の時、富山城の鐘の音色より本覚寺の梵鐘の方が優れていたのをねたみ、砂を焼付けて音色を変えたという言い伝えからです。しかし、砂はわざと付けたのではなく、鋳造の過程で付着した砂が残ったものという見方もあります。

なお、本覚寺は、富崎城主神保氏が信仰した寺と伝えられており、銅造楊柳観音像（ようりゅうかんのんぞう）や中世の古文書など多くの資料を有し、この寺院の歴史がうかがわれます。

本　覚　寺



富崎下車（地鉄バス）徒歩10分

砂付の梵鐘

下から見た砂付の梵鐘